
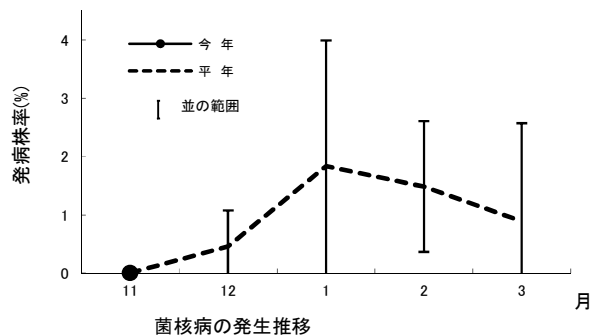


作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
11 月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
12 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後 1 か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。		

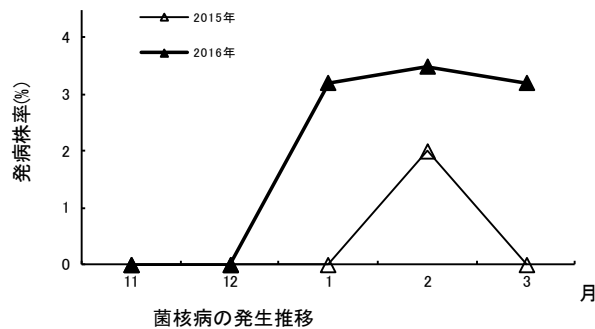
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病株率は0% (前年0%、平年0%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

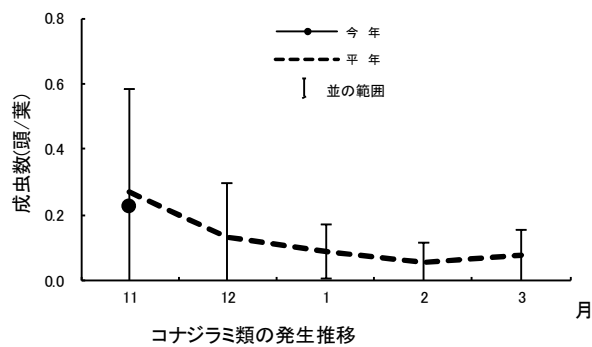
- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

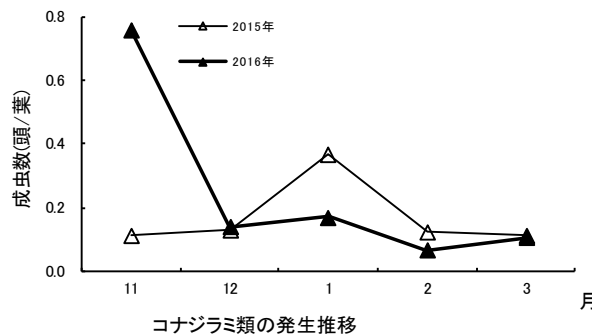
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.2頭 (前年0.8頭、平年0.3頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

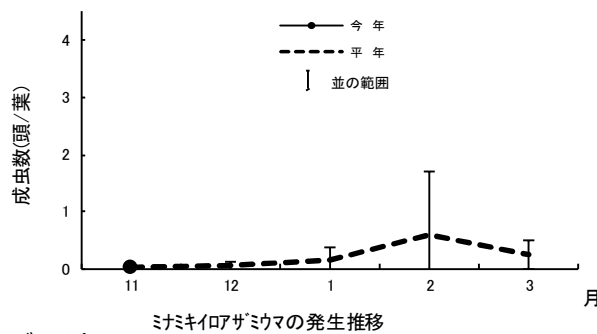
- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・ 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

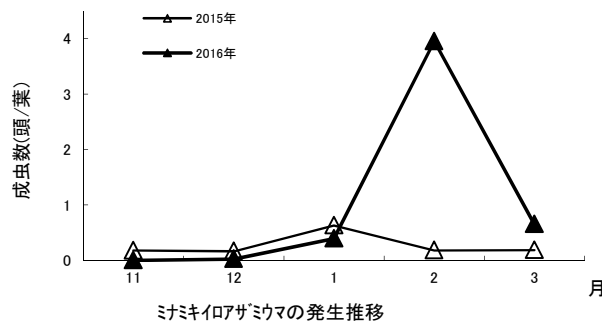
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満 (前年0頭、平年0.1頭未満) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

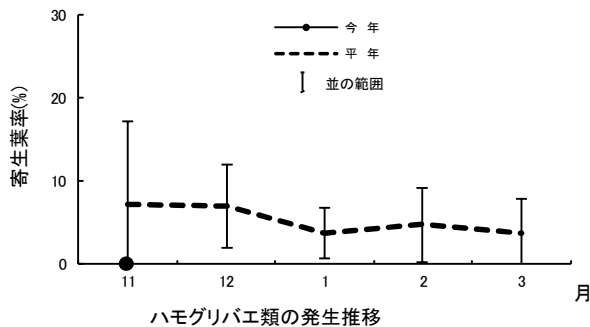
- ・ 施設の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

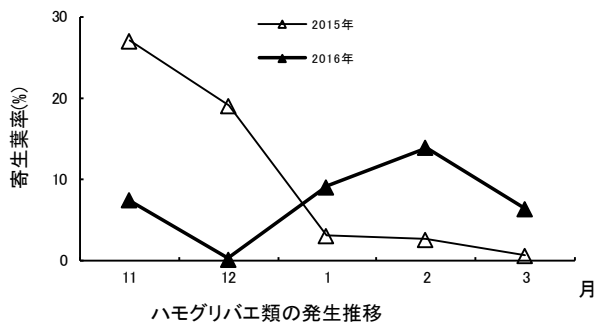
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、寄生葉率は0.1%未満 (前年7.5%、平年7.3%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

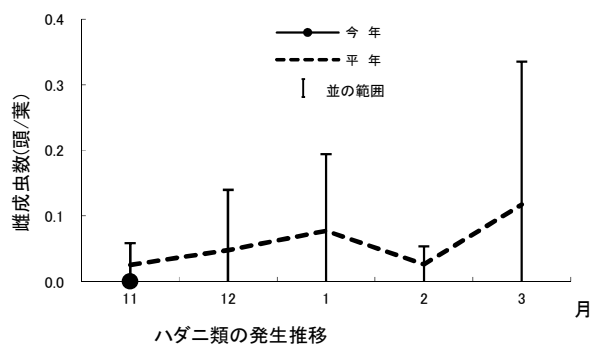
- ・ 摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
11月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

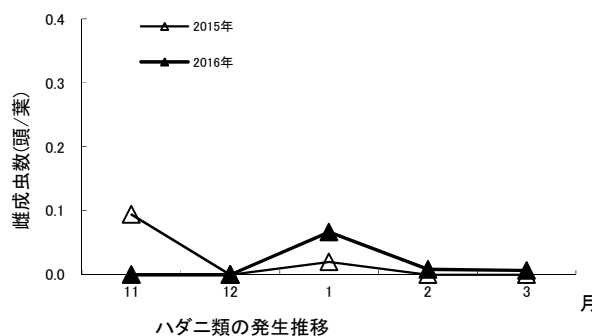
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0頭 (前年0頭、平年0.1頭未満) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

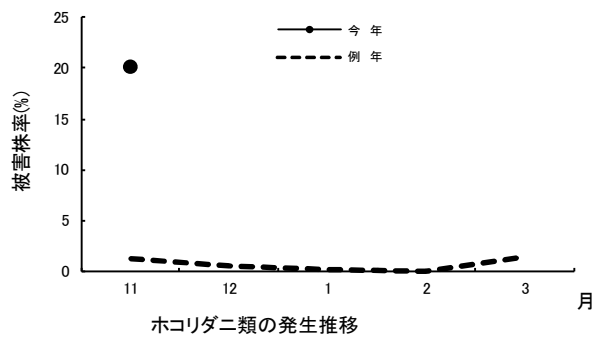
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
11月の発生量 (現況)	判定不可		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。		

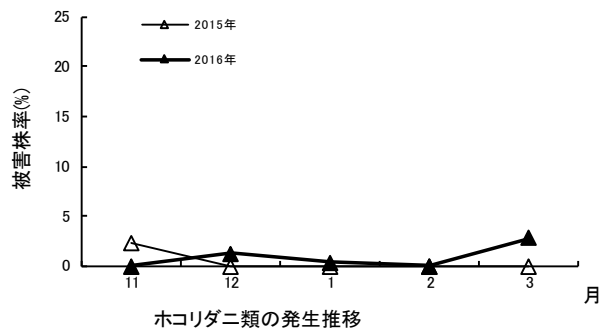
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、被害株率は20.0% (前年0%、例年1.3%) であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 20℃での卵から成虫までの発育期間は13~17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は葉裏へ丁寧に行う。
- ・ ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。